

第42回全国高等学校・中学校剣道（部活動）指導者研修会



実技研修の様子（於：研修センター大道場）

第42回全国高等学校・中学校剣道（部活動）指導者研修会（主催＝日本武道館・全日本剣道連盟・全国高等学校体育連盟剣道専門部・日本中学校体育連盟剣道競技部、後援＝スポーツ庁・全国都道府県教育長協議会・全国市区町村教育委員会連合会・千葉県教育委員会）は、1月4～6日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センター及び国際武道大学で、全国から143名（高等学校86名・中学校57名）が参加して行われた。

本研修会は、高等学校及び中学校における部活動の理解を深め、剣道の専門的な知識と技術の充実を図り、もって指導者の資質向上に寄与する目的で開催された。

■ 1日目（1月4日）

開講式では、白井日出男日本武道館理事長、藤野泰郎全国高等学校体育連盟剣道専門部部長、矢部勇介日本中学校体育連盟剣道競技部部長が主催者挨拶を、目黒大作講師が講師代表挨拶をそれぞれ述べた。

開講式終了後、アレキサンダー・ベネット特別講師（関西大学国際部教授）による「道場の壁を越えて」の講演が行われた。ベネット特別講師は「剣道をするからといって自動的に素晴らしい人間になれるわけではない。目的を具体化し、指導方法を工夫しながら主体性、規律性、柔軟性及び傾聴力、状況把握力等の社会人基礎力を身に付けさせることが大切。剣道を学ぶことによって人間形成ができるようになってはいるが、剣道をする意味を意識することにより、道場の壁を越えた人生観のための豊かな基盤が得られる」と、剣道を通しての人間形成について独自の剣道論を講演した。

その後、大道場に場所を移し、水田重則講師による実技指導法が行われた。礼儀作法や基本動作を確認した後、重心を意識した足さばきについて念入りに指導がなされた。休憩後の実技研修では、講師が元立ちとなつての地稽古、最後に水田講師の指揮で面の連続打ちを行い、初日は終了した。

■ 2日目（1月5日）

午前6時より講師が元立ちとなり早朝稽古が行われた。稽古後、藤原^{たかお}崇郎講師より「打たれまいとすると構えや姿勢だけではなく心も乱れてしまう。打たれる勇気を持つことが大事。打たれてもいいので、しっかりした気構え、姿勢で打突する稽古を心がけてほしい」と講評が述べられた。

朝食後はA班（七段以上）、B班（六段）は研修センター、C班（五段31歳以上）、D班（五段30歳以下）は国際武道大学2号館、E班（四段以下）は同大学7号館で、段位別の班に分かれて「日本剣道形」と「木刀による剣道基本技稽古法」がそれぞれ行われた。



A・B班：軽米良臣講師（右）による日本剣道形（小太刀1本目）の指導



C・D班：水田講師（左）による日本剣道形（2本目）の指導



E班：谷勝彦講師（左）による日本剣道形（3本目）

午後は藤原講師による審判法の概要説明の後、高体連3班、中体連2班にそれぞれ分かれて実際に参加者が試合を行い、各講師による審判方法の解説がなされた。

休憩後、水田講師による切り返し、基本打突の指導がなされた後、地稽古、面の連続打ちが行われ、午後の部は終了した。夕食後は、高体連と中体連に分かれて研修が行われた。高体連は①全国大会における審判、②^{つば}鏝^ぎり合い改善の取り組み、③部活動における剣道人口確保策等について話し合わせ、中体連は花澤博夫講師による講話が行われた。

■ 3日目（1月6日）

最終日は前日と同じく午前6時より早朝稽古が行われ、8時30分より佐藤義則講師による「部活動 武道必修化への関わり」の講演がなされた。佐藤講師は「剣道場がなく、体育館を新体操部や卓球部と併用しての稽古だったが、朝昼夕の3部練習を行い、顧問となって3年目に県大会で優勝した。それから2年連続で優勝し、全中でもベスト8に入った。私は、継続は力なりという言葉が好きだが、耐えた分だけ強くなり、努力した分だけ向上し、稽古した分だけ上達すると思う。この気持ちを持つことが大事。また、夢を持っている人が強いチームを作る。皆さんもぜひ夢を持って生徒を導いてください」と自身の剣道部顧問としての経験談に基づき、講演した。

閉講式では、矢部勇介日本中学校体育連盟剣道競技部部長が修了証授与を、藤原講師が講師講評を、土崎祐一郎全国高等学校体育連盟剣道専門部副部长兼専門委員長が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。